

四日市大学 2018(平成30)年度の研究実績報告書

〈原文ママ〉 (学部別・五十音順・敬称略)

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
総合	1	岩崎恭典	人口減少・超高齢社会に向けての行政対応	日本の人口は、2008年をピークとして減少が始まり、このままでいくと、2050年には今より約3,000万人の人口減と超高齢社会の到来が予想されている。この社会に向けて、これまでとは全く異なる官・民の関係を作っていかなければならない。これまでも継続的にフィールドとしてきた、三重県内・愛知県内の自治体を中心に、それぞれの自治体の特性に応じた政策提言・研修を行っているところである。	なし	「人口減少・高齢社会における地方鉄道存続のために-三岐鉄道北勢線の現状をケーススタディにして-」(一般社団法人日本民営鉄道協会機関誌『みんなてつVol.68冬号』2019年Winter所収) 「かわにし地域分権のまちづくり」(一般財団法人自治研修協会『平成30年度地域づくり講演会講演録』平成31年3月所収) 「地方自治の展望～地域自治組織と自治体職員の役割～」(滋賀県市町村職員研修センター研修情報誌『HIYAKU』2019.3所収)	なし	公共政策研究所を通じて、三重県市町総合自治組合「ワンステップ研修」、碧南市市民協働講演会を実施 個人として、鈴鹿市・愛西市とアドバイザー契約	なし	なし
総合	2	岡良浩	四日市大学ぐるみの産学官連携ツーリズムの研究	四日市大学COC事業特定プロジェクト研究Aとして表記テーマで研究を行った。松井真理子・富田与・鶴田利恵(いずれも四日市大学総合政策学部)との共同研究		四日市大学社会連携センター「四日市大学COC事業特定プロジェクト研究総括報告書」2019.2	2019年3月9日四日市大学地域連携フォーラムにて研究発表			
総合	2	岡良浩	四日市港におけるクルーズ客船の経済波及効果	2018年に初寄港したクルーズ客船が地域経済に与える経済波及効果を分析した。その結果を踏まえて今後の展望を考察した。水野英雄氏(椋山女学園大学)、鶴田利恵(四日市大学)、別府孝文・畑中純一(三十三総研)との共同研究		港湾経済学会中部部会「港湾研究」第40号に投稿中	2018年8月9日 日本港湾経済学会中部部会にて研究発表「四日市港へのクルーズ客船の寄港による経済波及効果の推計」			
総合	2	岡良浩	「三重のおもてなし経営企業選」受賞企業フォロー調査・分析	平成26年より開始された「三重のおもてなし経営企業選」を受賞企業(17社)を対象として、受賞企業に共通する特徴を①テキストマイニング②財務分析③類型化④離職率の4つの観点で分析した。岡は、③、④を担当した。岩崎祐子(四日市大学経済学部)・奥原貴士(四日市大学総合政策学部)との共同研究				三重県より受託した		

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
総合	3	奥原貴士	組織再編成功企業の財務特性 — のれんと財務特性に着目した実証分析—	分析に使用するデータを日経NEEDS-Financial QUESTから入手した。そして、組織再編によりのれんを計上した企業の将来業績と、企業の財務特性との関係を明らかにすることを目的として実証分析を行った。分析結果ではまず、のれんの金額が大幅に増加した企業は、それが小幅に増加した企業に比べて、将来業績が有意に悪化することが示された。続いて、期首の財務特性が、のれんを計上した企業の将来業績の決定要因の1つであることが明らかになった。			2019年3月15日 大阪市立大学会計研究会(於大阪市立大学)	平成30年度科研費、若手研究(課題番号18K12908)。		
総合	3	奥原貴士	IAS 38により資産計上される開発費の資産性	国際会計基準のIAS 38により資産計上された開発費の資産性を実証的に調査した。対象は、EU主要自動車企業である。分析結果から、連結貸借対照表に資産計上されている開発資産が将来利益率と結びついており、将来利益率の不確実性を高めていないことが明らかになった。他方、連結損益計算書に費用として計上される研究開発費は、将来利益率の水準に対してプラスの影響を及ぼしているが、将来利益率の不確実性を高める影響を及ぼしていることが示された。			2018年9月6日 日本会計研究学会第77回大会(於神奈川大学)			
総合	4	加納 光	中国語の語気助詞の意味機能についての一考察	日本語における終助詞の意味機能との比較を通して中国語の終助詞の文中における役割を今一度明確にしたいと考えている。研究はまだ途中であり、次年度も引き続き考察を続けていく予定である。						
総合	5	鬼頭浩文	①災害支援体制の確立を通して地域防災に中高大生が貢献する仕組みを構築 ②大学の事業継続計画の作成	①三重県教育委員会と連携し、中高生学校防災ボランティア事業を実施、多くの中高生が防災士資格を取得、防災人材の育成に貢献できた。また、大学生に関しては、四日市費が日本大震災支援の会として熊本・東北・岡山の被災地支援を行い、25名が消防団員として防災に貢献する仕組みを構築できた。 ②2019年1月に、大学内に防災教育支援センター(仮称)の設置が決定され、研究者が主任教員になり、他の教職員と協働で大学の事業継続計画の作成に着手する体制が整いつつある。	なし	なし	なし	・中央共同募金会より助成金を受給 ・三重県教委・四日市市社会福祉協議会より、活動のための移手段提供を受けた	なし	なし
総合	6	小泉大亮	高齢者における健康維持・増進を目指した身体運動について	介護施設を利用する虚弱高齢者を対象に3ヶ月間に亘り、マーチングリズムによる椅子からの立ち上がり運動を導入し、日常生活機能(ADL)や移動時の敏捷性に与える効果を検証した。介入結果から本研究で実施した運動は虚弱高齢者に対し日常生活機能(ADL)や移動能力を改善するものとみられた。本研究の成果をThe Journal of Physical Therapy Scienace 発表した。		Effedts of a 12-week marching in place and chair rise daily exercise intervention on ADL and functional mobility in frail older adults. Y. Kato., M. M. Islam., D. Koizumi., M. E. Rogers., N. Takeshima. J Phys Ther Sci, 2018, 30: 549-554.				
総合	7	小林慶太郎	地方自治体におけるマイノリティ政策の導入と展開	各地の自治体で始められている施策の内容等の把握を進めるとともに、より広範なダイバーシティ・インクルージョンの推進政策という枠組みの中で捉え直し考察を進めている。		「ダイバーシティと自治体行政」(月刊「地方自治みえ」第323号(2019年5月号)掲載予定・入稿済み)				

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
総合	7	小林慶太郎	基礎的自治体におけるミニ・パブリックス導入の課題と可能性	ミニ・パブリックスの1つである市民討議会を条例で位置づけ導入を始めている愛知県岩倉市の事例について、その政策への影響、運営上の課題などの整理を進めている。						
総合	8	高田晴美	「女性学」と「文学」の視点からの女性アイドルの炎上歌詞分析	女性アイドルグループHKT48の歌「アインシュタインよりディアナ・アグロン」が数年前にネット上で女性蔑視だとして炎上騒ぎになった。はたして歌詞の女の子は「女性蔑視」と言えるようなおバカな女の子なのか？この女の子はどんな女の子なのか？高校生の研究室訪問での授業、本学総合政策学部の科目「女性学」の中での講義等で数回、この歌の歌詞をテキスト分析することで、「女性学的」にはどう解釈できるか、文学研究の対象としてテキスト分析すると何が見えてくるかを学生に体験させた。そしてその成果を論文にまとめ、発表した。		『『女性学』『文学』の講義におけるアイドルの炎上した歌の歌詞分析の実践——HKT48『アインシュタインよりディアナ・アグロン』』『四日市大学論集』2019年3月				
総合	8	高田晴美	女性作家が描く性と性犯罪	近年、世界中で「#MeToo」運動が盛んになっているにも関わらず、日本ではいまいち賛同が得られず、むしろバッシングの方が目立つ有様である。これはどういうことか？背景には、他人の性被害をどう捉えるかという問題とともに、(日本ならではの?)性や性被害を我が事としてどう解釈するかという問題があると思われる。田村俊子「枸杞の実の誘惑」、佐多稲子「素足の娘」などの文学作品の中で性被害者である女性主人公が自分に起こった出来事をどう解釈していくか、女性作家がそれをどう描くかを分析することで、一筋縄ではいかない性と性犯罪、性被害の関係性やそれが女性自身にもたらす影響について考察を深めている段階である。中途段階ではあるが、田村俊子「枸杞の実の誘惑」をオープンキャンパスの模擬授業で取り上げ、「#MeToo」運動ともからめつつ講義を行った。今後、更なる分析をすることで、論文にまとめる予定である。		準備中				
総合	9	鶴田利恵	四日市港への外航クルーズ客船の寄港による経済波及効果の推計	平成30年度に5回実施された四日市港への外航クルーズ客船の寄港が、三重県にどのような経済波及効果をもたらすのかを、2度にわたるアンケート調査をもとにした産業連関分析により推計した。さらに、四日市港への寄港の特徴と今後の課題についても分析を行った。共同研究者：岡良浩、水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部)、別府孝文・畑中純一(株式会社三十三総研調査部)	なし	『港湾研究(第40号)』日本港湾経済学会中部部会 平成31年3月31日出版予定	日本港湾経済学会中部部会 平成30年8月9日(於)名古屋港湾会館	なし	なし	なし
総合	10	富田与	国連総会麻薬特別セッションの争点と合意形成	研究成果を下記の論文にまとめて、公刊した。		「国連総会麻薬特別セッションにおける「禁止主義」の継続」『四日市大学論集』31巻(2018)1号 □				
総合	10	富田与	テロ対策による自由の制限	データの抽出が困難であることから、調査を中断することとした。						

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
総合	10	富田与	芸術祭による地域振興	フィールドワークを継続している。		「観光振興から見た文化庁長官表彰に関する若干の考察「四日市大学COC地(地)の拠点」形成事業の調査事業から」 『四日市大学論集』31巻(2018)1号 □				
総合	10	富田与	国外で認知される四日市の地域資源	研究成果をまとめ、下記の論文として公刊した。		「観光から見た四日市の地域資源に関する若干の考察「四日市大学COC地(地)の拠点」形成事業の調査事業から」『四日市大学論集』31巻(2018)2号				
総合	11	永井博	丹羽文雄研究	丹羽文雄と戦争についての研究の一環として、これまで『還らぬ中隊』における死の表象を分析してきた。下記の論文でその分析を終えた。		『還らぬ中隊』における死の表象(四)——丹羽文雄と戦争・その5——(「四日市大学論集」第31巻第2号)				
総合	12	中西紀夫	憲法改正問題 ～9条を中心に～	安倍晋三首相が改憲施行を目標にしていることを明言しているが、政治家と多方面の有識者による議論はもとより、国民的議論も不十分な状況下において、政権与党側には改憲勢力があったとしても急いで発議までもっていくというやり方は避けていただきたいと考えている。議論としてメインになってきたのが、9条への自衛隊明記についてであったので、そこを中心に多くの研究者等の著書や資料、さらには関連記事や番組も積極的に見るようにして認識を深める努力をしてきている。						
総合	13	本部賢一	北勢地区における移動制約者と公共交通機関の状況および福祉有償運送の必要性に関する研究	本研究の目的は、三重県北勢地区内の移動制約者数と公共交通サービス及び福祉有償運送サービスのバランスを見て、「福祉有償運送サービスのさらなる提供が必要かどうかを見定める」ことである。平成30年度は、地域別移動制約者の分布と移動のニーズに関するデータ収集・集計を行った。今後、対象地域の詳細な地図を作成、移動制約者の分布と公共交通整網を展開し、さらなる福祉有償運送サービスの提供が必要な地域を探る予定である。	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
総合	14	松井真理子	「自治体協働型アドボカシー」の研究	英米を中心に研究が進んでいる「変化の理論」を基盤とする「アドボカシー戦略」について、文献調査を中心に研究を行った。科研費の申請もこのテーマで行い、研究の方向性がある程度具体性された。また、アドボカシー研究については、「市民協働によるアドボカシー」について東海市民社会ネットワークとの連携関係が確認された。		①自治体におけるNPOのアドボカシー戦略(四日市大学論集2018年9月号)				

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
総合	14	松井真理子	若者を対象とする部落問題啓発のあり方の研究	部落差別解消法の施行に伴い、四日市市において若者に対するどのような啓発を行うべきか研究委託された。「人権論」の授業において、学生に対して部落問題についての学習の経験、意識等の調査を行い、この分析によって、部落問題について高齢者とは異なるアプローチが必要であること、現代の部落問題の状況の学習が必要であること等の知見が得られた。				四日市市人権センター(啓発資料の作成)		
総合	14	松井真理子	社会的企業のあり方の研究	NPOにおける実践をベースに、以下の2つに取り組んだ。 ①については「わかもの学会」でゼミ生に発表させ、最優秀となった。②については冊子にまとめ刊行した。 ①四日市サブレの開発を通じた社会的企業のあり方の研究(3年生ゼミの参加) ②働きにくさを抱える若者のトレーニングカフェを通じた、社会的企業の成果と課題の研究				福祉医療機構(社会的企業の実践と成果を分析する冊子の刊行)		
総合	15	三田泰雅	農村の観光開発と住民意識	いなべ市の辺地集落を対象に、グリーンツーリズムの交流拠点開発計画を住民はどのように受け止めたか、また、その計画を受けて地域ではどのような変化があったかを明らかにする。		三田泰雅, 2019, 「誰が『消費される農村』に向かうのかーグリーンツーリズムの拠点開発に対する住民意識」『東海社会学会年報』(11)(掲載決定)	三田泰雅, 「グリーンツーリズムの拠点開発に対する住民意識ー三重県いなべ市の調査結果からー」2019.7.7, 第12回東海社会学会大会, 名古屋学院大学			
総合	15	三田泰雅	地方都市における家族形成	三重県における少子化の要因を明らかにする。2018年度は未婚化に注目し、三重県少子化対策課が2017年に実施した調査データの二次分析を行なう研究会を開催した。岩崎恭典(四日市大学)、東川薫(四日市大学看護医療大学)との連携研究。					(講演)三田泰雅, 『未婚化の現状と課題』, 2019.3.18, 三重県主管課長会議。	
総合	15	三田泰雅	地方大学の人材育成	地方大学における人材育成に注目し、卒業生と地域との関わりを明らかにする。 COC特定プロジェクト◎の一部。	特定プロジェクトC調査分析部会編, 2019, 『四日市大学卒業生アンケート調査報告書』四日市大学社会連携センター。(1,2,7,8章) 特定プロジェクトC調査分析部会編, 2019, 『四日市大学卒業生の就職先アンケート調査報告書』四日市大学社会連携センター。(1,2,3,5章)				三田泰雅, 2019, 「卒業生の状況調査」, 四日市大学社会連携センター製作『四日市大学COC事業 特定プロジェクト研究報告書』: c2-8.	

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
総合	16	Gordon Rees	1. Radio Drama and Reader's Theatre in EFL 2. Performance-Assisted Learning (PAL)	This year I did action research on the use of Performance-Assisted Learning in reading classes. I wanted to determine if PAL activities could be implemented effectively in reading classes to help build confidence and encourage expressive speech for student presentations. I utilized radio drama, Reader's Theatre and video skits in the first semester of a compulsory second-year reading class, and then had students make a five-minute PowerPoint presentation at the end of the course. I surveyed the students to try and determine the effect that the in-class PAL activities had on them. From the survey results, I found that the radio drama activity was popular with the students, and was preferred by shyer students over other PAL activities that required them to perform in front of the entire class. These results encouraged me to implement a larger group radio drama activity in the second semester to see if I could add some variation to the curriculum, motivate the students, and also encourage them to speak with more expression in the final class presentation. In the second semester, I implemented a radio drama project of Bram Stoker's Dracula in parallel with the regular course curriculum. At the end of the semester, I instructed students to make Pecha Kucha presentations on topics that were covered in class. After their presentations, I surveyed them to get their impressions and feelings about the radio drama project and on presenting in the Pecha Kucha format. In the coming year, I hope to continue my action research on the use of PAL in reading classes and write a paper summarizing the results of my research from this year. I would also like to explore different methods for assessing student performances, as well as do some research on creating rubrics for evaluating PAL activities, like radio drama and Reader's Theatre.			Utilizing Video Skits to Build Confidence and Teach Speaking and Reading with Expression- JALT PanSIG 2018 2. Put Some Mojo into Reading Classes with Reader's Theatre and Radio Drama JALT PanSIG 2018 3. Integrating Performance-Assisted Learning (PAL) into Required Reading Classes JALT SD&D SIG Travelling Conference 2018 at SIT 4. Using Video Skits to Encourage Expressive Speech and "Cook Up" Some Fun in the Classroom JALT SD&D SIG Travelling Conference 2018- KGU 5. Add Some S-P-I-C-E to Reading Classes with Reader's Theatre- JALT SD&D SIG Travelling Conference 2018- KGU 6. Using Video Skits to Build Confidence for Public Speaking- JALT SD&D SIG Fall Conference 2018 7. Promoting Expressive Speech in Reading Classes with (Radio) Drama- JALT SD&D SIG Fall Conference 2018 8. Drama Activities to Help Build Student Confidence for Public Speaking- JALT SD&D SIG Forum- JALT 2018 9. Using (Radio) Drama to Encourage Expressive Speech JALT 2018 10. Everyone Needs a PAL They Can Rely On: Making Reading Fun with Performance-Assisted Learning (PAL)- JALT SD&D SIG Early Spring Conference 2019			
総合	17	若山裕晃	アメリカ野球マイナーリーグにおけるメンタルトレーニング指導の実態調査	2013年3月、フロリダ州及びアリゾナ州のメジャー球団のキャンプ施設視察。2015年8月、ミシガン州及びインディアナ州にてロスアンゼルスドジャース傘下マイナーチームのレギュラーシーズン中の活動を視察。2016年3月、アリゾナ州のドジャースのキャンプ施設視察。2016年9月、アリゾナ州にてドジャースのマイナー選手秋季教育リーグを視察。マイナーチームのメンタルトレーニング指導を担当するドジャース専属のスポーツ心理学者であるAJ Lalonde氏から各種手法の教示を受ける。2018年3月、アリゾナ州のドジャースのキャンプ施設にて、AJ Lalonde氏とLeo Ruiz氏によるスプリングトレーニング時のマイナー選手への講義とエクササイズ形式でのメンタルトレーニング指導を視察し、筆者自身もそのプログラムを体験した。2018年12月、アリゾナ州のドジャースのキャンプ施設にて、AJ Lalonde氏とLeo Ruiz氏からチームビルディングプログラムの手法についてレクチャーを受けた。						
環境	18	井岡幹博	スマホによる現地調査の可能性検証	iPhoneのアプリケーションとして、AR(Augmented Reality 拡張現実)技術を利用して、カメラでとらえた画像から、樹木の高さの抽出することを目的とした。今年度は、iPhone、iPadアプリケーションの開発環境であるxcodelにおける、ARの基本的な機能(平面抽出、CG動画のカメラ画像への張り込み)の検証をおこなった。室内での実験では、平面の抽出は、ある程度の精度で可能であることがわかった。						

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	19	池田幹男	e-Learning を利用したアクティブラーニング	四日市大学では e-Learning のシステムとして長年 Moodle を使用してきた。コンピュータ実習科目を中心として、教材の呈示、課題の提出、採点のフィードバックに使用利用されてきたが、Moodle の機能を十分に活用しているとは言えなかった。平成30年度は、これまであまり活用されてこなかったフォーラム、尺度による評価、ルーブリックによる評価を利用した授業を実際に実施し、アクティブラーニングに活用することができた。岡良浩准教授、岩崎祐子教授と共同で行ったコンピュータ実習科目でない「おもてなし特別講義b」においてこれらの活用を図った。現在、論文を執筆中である。	なし	なし	なし	なし	なし	なし
環境	20	大八木麻希	三重県の海岸及び干潟におけるマイクロプラスチック分布	本研究では、高松干潟及び御殿場海岸、芦原海岸、千代崎海岸に漂着するマイクロプラスチックの主な種類とその割合を調べ、季節ごとの分布を明らかにすることを目的とした。高松干潟のマイクロプラスチックの採取個数については5月、6月の結果(平均3448個/m ²)が9月、11月の結果(平均1479個/m ²)より高い値が得られた。3つの海岸でも同様の傾向が得られた。これは9月に襲来した台風によるマイクロプラスチックの流出と約8割を占めている徐放性肥料カプセルの施肥の時期によるものと推測された。			上田辰彦, 大八木麻希, 三重県高松干潟におけるマイクロプラスチック分布, 日本陸水学会東海支部会第21回研究発表会前倉龍次, 大八木麻希, 三重県の伊勢湾に面する海岸におけるマイクロプラスチック分布, 日本陸水学会東海支部会第21回研究発表会」			
環境	20	大八木麻希	三重県高松干潟におけるオチバガイの生息	オチバガイは三重県で、準絶滅危惧種に指定されている。本研究では、高松干潟におけるオチバガイの生活する底質環境及び生息個体数の季節変化を明らかにすることを目的とした。夏季の間の急激なベントスの減少は、今季の猛暑によるものと考えられる。また、地点別のオチバガイ個体数では、st.1は7個体、st.2は30個体、st.3では0個体、st.4では0個体、st.5では11個体であった。オチバガイ全く確認されない地点があった。粒度との関係に関しては、砂質を好む傾向が確認された。			高田優人, 大八木麻希, 高松干潟におけるオチバガイの生息, 日本陸水学会東海支部会第21回研究発表会			
環境	20	大八木麻希	深見池における成層期から循環期への移行期における全層貧酸素層の出現と解明	深見池では1978年から観測を継続しているが、2013年12月に初めて表層での貧酸素層出現を観測した。その後、2014年から毎年観測されている。そこで本研究では、貧酸素層の出現と消滅を長期連続観測によってその過程を明らかにし、既存のデータから理論的に貧酸素となるかを検証した結果、理論値のDO濃度は1.7mg/Lとなり、観測されたデータと対応する結果であった。			大八木麻希, 八木明彦, 深見池における成層期から循環期への移行期における全層貧酸素層の出現の解明, 日本陸水学会代83回岡山大会			

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	21	小川東	数学史	<p>(1) 関流を中心とする近世日本数学史の研究として、関孝和全集の編纂、建部賢弘の研究他 定期的に開催された編集会議において『関孝和全集』の編集を進めた。</p> <p>(2) ディオファントスの『アリトメティカ』など西洋数学史の講読、研究他 数学史京都セミナーにおいてディオファントスの『アリトメティカ』巻1, 2(ギリシア語), 巻4(アラビア語)を購読し『YURO 2018』に収録した。</p> <p>(3) Rosalie Hosking氏との『大成算経』の英訳、算額研究他 建部賢弘『大成算経』第2巻の英訳を森本光生, R. Hosking両氏とともに進め, SCIAMVSに投稿した。</p> <p>(4) 国文学研究資料館の近世日本の数学書へのタグ付けプロジェクト, 資料活用連絡協議会(数学)参加</p>	(1) Tsukane Ogawa, Mitsuo Morimoto (eds.), Mathematics of Takebe Katahiro and History of Mathematics in East Asia, Advanced Studies in Pure Mathematics 79, Mathematical Society of Japan, 2018.	<p>(1) Rosalie Joan Hosking Tsukane Ogawa Mitsuo Morimoto, 'Elementary Soroban Arithmetic Techniques in Edo Period Japan,' Convergence, Mathematical Association of America, July, 2018 (online journal).</p> <p>(2) Tsukane Ogawa, "Takebe Katahiro - A man of his times: a survey of his life and mathematical thought," Mathematics of Takebe Katahiro and History of Mathematics in East Asia (2018) 3-28.</p> <p>(3) Tsukane Ogawa and Mitsuo Morimoto, "Method for a circle, Volume 12 of the Taisei Sankei," Mathematics of Takebe Katahiro and History of Mathematics in East Asia (2018) 361-412.</p> <p>(4) 森本光生, 小川東「大成算経の諸写本について」RIMS Kokyuroku Bessatsu (京都大学数理解析研究所, 印刷中).</p>	(1) OGAWA Tsukane, "The Mathematical Philosophies of Seki Takakazu and Aida Yasuaki," European Society for the History of Science, Biennial Conference 2018, London, 17 September.	(2) 小川東「関孝和の「分術」について」日本数学会年会, 東京工業大学, 3月17日.	(1) 書評「沓掛良彦『ギリシア詩華集4』(京都大学学術出版会)」「数学文化」29(2018) 93-96.	
環境	21	小川東	珪藻の分類学	<p>(1) 珪藻のBasionym, Homotypic Synonym, Heterotypic Synonymなどの整理, 分析他 (1-1) 海産珪藻のBasionym, Homotypic Synonym, Heterotypic Synonymなどを整理した。</p> <p>(1-2) 生物学研究所の田中正明先生と北海道にて採集, 論文にまとめた。</p>		<p>(1) 小川東, 田中正明「多摩川上流域から得られたCymbella janischii (A.W.F.Schmidt) De Toni 及びGomphoneis minuta (Stone) Kociolek & Stoermerの走査型電子顕微鏡観察」『四日市大学論集』31. 2(2019), 119(281) - 125(287).</p> <p>(2) 小川東, 田中正明「モケウニ沼の珪藻類」『四日市大学論集』31. 2(2019), 127(289) - 138(300).</p> <p>(3) 田中正明, 小川東「プランクトンの個体数, 或いは量的表現の問題点」『西三河野生生物研究会会報』11(2019年3月) 1-4.</p>				

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	22	片山清和	2型糖尿病のセルフマネジメントツールに関する研究	ツールの作成が終わり、被験者を選定し、評価を終え、論文執筆を行った。 今後は、より多くの人に使いやすいツールとするため、スマホアプリの作成を検討している。			SMDia:Self-Management Program for Type 2 Diabetes. Keiko Takahashi, Kiyokazu Katayama, Rina Mori, 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Jan 17-18, 2019, Singapore.			
環境	23	木村眞知子	新たな映像表現への挑戦～スマホによる「マルチスクリーン」の新たな試み～	スマホを使ってのマルチスクリーンの映像制作の試みは、撮影した映像を編集する従来のものと異なり、スマホで映像を撮影し、そのスマホを並べ映像を再生するところをさらにカメラで撮影するという方法で制作するもの。今回の場合は、その制作過程を体験することで映像制作への興味やクリエイティブな活動への関心を持ってもらうためのプログラム作りを目指した。映像体験プログラムとしてのフォーマットを構築。そのプログラムで試みた参考作品のDVDを制作。						映像ワークショッププログラム「スマホで映像遊び～マルチスクリーン」
環境	23	木村眞知子	映像制作指導のための資料動画の作成	映像制作において、撮影や編集で気をつけなければならない基本ルールなどがある。指導用資料として、「イメージライライン」「カメラアングル」についての動画を制作した。						映像制作の基本「イメージライライン」「カメラアングル」
環境	24	黒田淳哉	四日市市の光害調査	光害とは、過剰且つ不適切な人工照明によって引き起こされている環境問題である。まず、四日市市の光環境の現状を把握する為にSky quality meter with lensによって、四日市市の明るい場所を中心に調査を行った。そしてCOC事業の特定プロジェクトとして調査報告をまとめた。Sky quality meter with lensを使用した計測だけでは、正確なデータを収集できない場所がある為、今後はデジタルカメラを使用した計測も行いながら長期的な計測を行っていく予定である。	特定プロジェクトB 環境教育教材 「北勢地域の自然環境と情報環境」					
環境	25	城之内忠正	決定論における解の分岐について	マクロな日常的世界では決定論に従って開発された機器があふれ、便利な世の中になっている。 しかしながら、部分的に成功を収めた決定論を世界全体に適用すると、偶然による解の分岐について説明がつかない。ミクロな量子力学的な確率による分岐だけでなく、情報不足による曖昧な判断など決定論の範囲内でも偶然性が発生している。しかしながら偶然による解の分岐は、エネルギーの保存則等を満足するように定式化すると多世界解釈のような奇妙な状況となり、直感的に受け入れがたい。 分岐のメカニズムと保存則を両立させる様々な方法を考慮している段階である。	無し	無し	無し	無し	無し	無し

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	26	関根辰夫	ファイルメーカーによる学生生活向上のためのカスタムソリューションの開発	ファイルメーカーを使って、ダイヤが複数ある三岐バスの時刻表アプリを作成し、発表した。 また、コンサートなどの準備段階で必要とする、バンドのセッティング図を簡易に作成することができるフォーマットを作成中。					ファイルメーカーによる三岐バス(富田～四日市大学間の時刻表アプリ)を発表 (四日市大学 環境情報学部のホームページにて)	
環境	27	武本行正	環境技術研究、○水質大気測定調査 数値計算法のC言語によるプログラミング	環境調査研究での共同研究、四日市市内の海蔵川・十四川・朝明川・鎌谷川の水質汚染の調査分析 ・(財)三重県環境保全事業団・四日市市内河川の水質汚濁に関する共同研究	特定プロジェクト研究(B)「地域環境保全のための総合研究と環境教育」報告書:海蔵川・十四川・朝明川・鎌谷川の水質汚染【河川グループの武本分担】	武本行正・高橋正昭・大八木麻希・稲垣茂明・橋本禮次郎・平田一雄・服部忠道、十四川の水質汚染について、四日市大学論集30(2): pp.153-174 (2018), 永田悠太・武本行正・高橋正昭・大八木麻希、名古屋市堀川の水質汚染について、四日市大学論集31(1): pp.117-124 (2018)	武本行正・高橋正昭・大八木麻希・榊正史・伊藤二郎・寺沢爵典、四日市市内・海蔵川の水質汚濁について、日本環境学会第44回研究発表会、予稿集120頁-121頁、三重大学(2018)	三重中央開発、活水プラント(株)、(財)三重県環境保全事業団		
環境	27	武本行正	○環境技術研究、水質大気測定調査 数値計算法のC言語によるプログラミング	環境技術開発での共同研究、焼却灰を用いた脱フッ素剤の開発、伊勢湾の底質汚泥におけるリン除去実験、下水汚泥での焼却灰からのリン回復 ・三重中央開発(株)・・・焼却灰、焼成灰の鉛含有量低減化技術開発に関する共同研究 ・活水プラント(株)・・・バイオマスの高機能メタン発酵装置による資源化技術の開発	Masaaki Takahashi, Shrestha Rashim Bahadur, Yukimasa Takemoto, Maki Ooyagi, Kati Nabin, Adhikari Jayaram, Eiji Yuki and Takanori Terazawa, The Development of a Fluorine Removal Agent Using Incinerated Ash, Journal of Materials Science and Engineering A 9 (1-2) (2019) 17-24	Yukimasa Takemoto, Masaaki Takahashi, Kati Nabin, Adhikari Jayaram, Maki Ooyagi, Shrestha Rashim Bahadur, Eiji Yuki and Takanori Terazawa, Experiment of Removing Traces of Phosphorus in Water Using Bottom Sludge of Ise-Bay, Journal of Materials Science and Engineering A 9 (1-2) (2019) 8-12	Masaaki Takahashi, Yukimasa Takemoto and Eiji Yuuki, Phosphorus Recovery from Incinerated Ash of Sewage Sludge by Heat Treatment, Journal of Materials Science and Engineering A 9 (1-2) (2019) 13-16	三重中央開発、活水プラント(株)、(財)三重県環境保全事業団		
環境	27	武本行正	環境技術研究、水質大気測定調査、○数値計算法のC言語によるプログラミング	数値解析での研究、C言語による常微分方程式の数値解法の分析研究		武本行正・高橋正昭・石田修二、1階・2階線形斉次非斉次常微分方程式の数値解法について、四日市大学論集 31(2): pp.87-106 (2019)				
環境	28	田中伊知郎	人類に至る行動の進化	人類は、社会的伝達など学習することが多い。そのため、コドモ期が拡大している。その比較調査を行うため、関係各所に説明を行い、調査許可を得た。具体的調査は来年度からになる見込みである。	なし	なし	なし	なし	なし	なし

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	29	千葉賢	伊勢湾の貧酸素水塊発生現象の解明	三重県環境生活部大気水環境課、県水産研究所、県保健環境研究所と共同で研究を進めた。 平成30年度は本学の伊勢湾海洋実習で採取した海水の栄養塩と有機物とプランクトンの分析を行い、湾口付近の縦断面の分布特性を明らかにした。また、採取した海水を実験室で長期間培養して、有機物の分解特性を調査し、分解速度、易分解/難分解有機物の比率などを明らかにした。 また、環境省の広域総合水質調査データを詳しく分析し、1980年頃からの海域の水質変化を求め、貧酸素水塊の長期化現象の原因を考察した。		(1)渡邊卓弥, 谷村譲紀, 奥山幸俊, 国分秀樹, 柘植亮, 千葉賢, 伊勢湾における有機物の分解特性に関する考察, 三重保環研年報 第20号(通巻第63号), pp.63-67, 2018		三重県環境生活部大気水環境課、三重県水産研究所、三重県保健環境研究所との共同研究。 研究資金は三重県環境生活部が提供。		
環境	29	千葉賢	伊勢湾の海洋ゴミの研究	答志島の奈佐の浜の海洋ゴミと宮川流域の河川ゴミの調査を県環境生活部大気水環境課と共同で進めた。西日本豪雨に伴う湾北部への多量の漂着ゴミの解析と、マイクロプラスチックの調査をCOC事業の特定プロジェクトとして進めた。奈佐の浜では定点カメラを設置して長期調査を行ったが、ゴミ量と気象・海象条件の関係性のデータを取得できた。宮川流域の調査では、衛星画像とドローンを活用して、自然ゴミとなり得る間伐材が放置されている場所、ヨシ原面積などを調べた。また、吉崎海岸、四日市港海底、伊勢湾海面のマイクロプラスチックを調査し、存在量、種類、サイズなどを下記の論文(2)(3)に記載した。		(1)学校法人暁学園四日市大学、平成30年度三重県海岸漂着物モニタリング調査業務委託報告書 (2)冊子「北勢地域の自然環境と情報環境」(COC事業、特定プロジェクトB成果物) (3)浅井雄大、張徳偉、千葉賢、四日市市楠町吉崎海岸のマイクロプラスチック分布の現地調査、四日市大学論集、第31巻、第1号、125-135、2018		三重県環境生活部大気水環境課からの委託研究 文部科学省、地(知)の拠点整備事業		
環境	29	千葉賢	大学周辺の里山の環境調査	COC事業の特定プロジェクトB「地域環境保全のための総合研究と環境教育」の中で、大学周辺の里山の環境調査を実施した。平成30年度は大学キャンパスのナラ枯れ調査(毎木調査)を実施し、ナラ枯れの状況や、樹齢との関係などを明らかにした。また、大学キャンパスと平津町の里山の竹林健全度調査を行い、地理情報システムGISにデータベースとして記録するとともに、ドローンによる空撮を行い、空からの健全度調査方法についても検討した。		(1)藤崎蓮、平野智也、千葉賢、四日市大学構内の雑木林のコナラの集団枯れについての現地調査、四日市大学論集、第31巻第2号、pp.107-118、2019		文部科学省、地(知)の拠点整備事業		

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	30	橋本幸彦	四日市大学、およびその周辺に生息するタヌキの生態. 特に食性と行動圏利用について	四日市大学およびその周辺に生息するタヌキのため糞や通り道にセンサーカメラを仕掛け、タヌキが来る頻度や時間帯などを調査した。夜行性を示す地域と昼行性を示す地域があることが明らかになった。また、10月から各ため糞場から糞を月に1回ずつ回収しており、今後分析する予定である。	Hashimoto, Y. and T. Anrui (2018). Establishment of Management Plan by Sighting Reports of Asiatic Black Bears (Ursus thibetanus): A Case Study in Oze National Park, Central Japan. In National Parks – Management and Conservation. InTechOpen	ニホンカモシカの分布の変遷, 「野生動物と社会」学会誌 5 (2) 1-8.				
環境	30	橋本幸彦	三重県民の森の哺乳類相	三重県民の森においてセンサーカメラを設置し、生息している野生動物の種類と行動時間を調査した。今年度は期間を限った予備的な調査であったが、今後は調査期間を延ばし周年にわたる調査を行う予定である。	Hashimoto, Y. and T. Anrui (2018). Establishment of Management Plan by Sighting Reports of Asiatic Black Bears (Ursus thibetanus): A Case Study in Oze National Park, Central Japan. In National Parks – Management and Conservation. InTechOpen	ニホンカモシカの分布の変遷, 「野生動物と社会」学会誌 5 (2) 1-8.				
環境	31	廣住豊一	土壌の物理化学性がトルコギキョウの切り花品質に与える影響	トルコギキョウは花色・花形が豊富で、フラワーアレンジメントやブライダルなど幅広いジャンルで使用され、生花店でも大部分の店舗で取り扱いが見られるわが国の主要な花きである。トルコギキョウは、キク、バラ、ユリ、カーネーションなどと並んで花き市場において重要な地位を占める。本研究課題ではトルコギキョウの生産および品質向上に関する研究を進めている。平成30年度は、土壌の養分管理が茎の挫折強度に与える影響について調査した。施肥条件を変えてトルコギキョウを栽培し、茎の挫折強度にどのような変化がみられるか調べた。	なし	廣住豊一(2018):トルコギキョウ‘ピッコロサスノー’の地上部新鮮重が茎の直径と挫折強度との関係に与える影響. 四日市大学論集, 31(1):137-143	廣住豊一(2019):トルコギキョウ3品種における花の質量と茎の性質との関係. 園芸学会平成31年度春季大会(開催日:2019年3月23日~24日,開催地:明治大学農学部・神奈川県川崎市)	なし	なし	なし

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	31	廣住豊一	亀山温泉「白鳥の湯」の施与によるトマトの品質向上効果	<p>平成30年度は、平成29年度COC1人1プロジェクト「北勢地域の温泉資源を活用した地域ブランド農作物創出への挑戦」によって得られた結果をもとに、さらなる発展を目指し、より実証的な環境に近づけるためのハウス土耕による栽培実験を実施した。また、果実成分に対する分析項目を拡張し、ミネラル分等の成分分析を実施した。</p> <p>亀山市との連携をさらに強化するとともに三重県の試験研究機関との連携を模索するため、亀山市・三重県農業研究所・三重県保健環境研究所から関係職員・研究者に参加いただき、亀山市環境福祉部において本研究の報告会を実施した。</p> <p>外部との連携窓口や研究資金獲得のための組織として、四日市大学研究機構に「地域農業研究所」を設立した。学部資金獲得のため、民間財団の研究助成金に応募した。</p>	なし	なし	伊藤旭人・廣住豊一・森康則(2018):高塩分濃度の温泉水かんがいによるトマト果実の糖度向上効果.平成30年度農業農村工学会大会講演会(開催日:2018年9月4日~9月6日,開催地:京都大学吉田キャンパス・京都府京都市) 廣住豊一・伊藤旭人・森康則(2018):亀山温泉を活用したポット栽培トマトの高糖度化.日本温泉科学会第71回大会(開催日:2018年9月6日~9月7日,開催地:別府公会堂・大分県別府市)	なし	なし	なし
環境	31	廣住豊一	竹林間伐材由来の資材を連用した農耕地における土壌環境の時間的空間的变化	<p>四日市地域は豊富な竹林資源に恵まれている。しかしその一方で管理を放棄された竹林が問題になっている。そこで放棄竹林対策の一環として、竹林間伐材を肥料化し、有用な資源として活用することを目指す取り組みが行われている。本研究課題では竹粉の有効利用に関する調査研究を進める。平成30年度は当初計画通り次の2点を実施した。</p> <p>(1)現地調査 三重県四日市市堂ヶ山町にある竹粉施与試験田において田植え前および稲刈り後に土壌調査を実施し、竹林間伐材から製造された粉末肥料が農耕地土壌に対する影響について調査した。</p> <p>(2)カラム実験 竹粉を混合した土壌を塩化ビニルパイプで作成した実験用カラムに充填し、水稻を栽培した。定期的に土壌中の間隙水を採取し、土壌中における物質循環の時間的空間的变化を調べた。</p>	なし	岡部将和・廣住豊一・大八木麻希(2019):竹粉混合水田土壌カラムにおける間隙水中の物質動態.四日市大学論集,31(2):145-154, 横井亮太・廣住豊一(2019):竹粉資材施用が三重県堂ヶ山町水田の土壌環境に与える影響.四日市大学論集,31(2):155-164	なし	なし	なし	なし
環境	32	Eric Bray		This year I made good progress with my work on developing a Learning Journal that can be used while students watch a movie in the classroom. I was able to write an article that has been accepted for publication will be published later this year in the JALT Language Teacher entitled- Using Movies in the Foreign Language Classroom: The Movie Journal approach						

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	33	前川督雄	有限不均質な仮想生態系における不死の生命の閉塞を打破する進化シミュレーション	地球生態系は空間的・物質的に閉鎖系を成しており、地球生命は有限の環境条件を最大限に活かす様々な形質が進化してきている。 その形質のひとつとして、元々不死であった地球の生命が、自己解体を伴う死の遺伝子を進化的に獲得した可能性を示唆する結果をこれまで得ており、死の遺伝子が地球生命・地球生態系の進化に及ぼした効果を検討するための仮想生態系・人工生命のシミュレーターの拡張開発と実験を進めてきた。 死の遺伝子をもつ生命が自己解体した後の残留活性が不死の生命を増殖進化の閉塞から救済する事例を示すシミュレーションを実現し、そのことによって、増殖限界に達していた不死の生命が増殖を再開するとともに、不死の生命に占拠され不毛の地と化していた領域を再び生きた生態系と示ることが示された。	(下記学会発表のプロシーディングは、共著著書として出版された)		国際会議TPNC2018(7th International Conference on the Theory and Practice of Natural Computing)で発表。 <書誌情報> Maekawa T., Honda M., Ueno O., Oohashi T. (2018) Mortal Organisms Rescue Immortal Organisms from Evolutionary Inertness: Perspective of the Programmed Self-decomposition Model. In: Fagan D., Martin-Vide C., O'Neill M., Vega-Rodriguez M. (eds) Theory and Practice of Natural Computing. TPNC 2018. Lecture Notes in Computer Science, vol 11324. Springer, Cham DOI: 10.1007/978-3-030-04070-3_22			
環境	34	牧田直子	淡水に棲息するプランクトンの調査研究	北勢地域を中心に、淡水に棲息するプランクトンの調査研究を実施した。平成30年度に調査した場所は、四日市市内については、大学西の水田、山村貯水池、萱生川、池ノ谷(四日市市垂坂町)、伊坂貯水池、朝明川、谷田池である。 また、愛知県立海翔高等学校で高大連携講座の授業を行った際に、水田(弥富市六條町)で採集した試料についても、調査結果を「プランクトン通信」にまとめて報告し、高等学校への還元も行った。	なし	なし	なし	なし	「四日市大学生物学研究所 プランクトン通信」No. 13 (2018年5月)、No. 14(2018年7月)発行.	なし
環境	34	牧田直子	汽水域に棲息す珪藻類の調査研究	生物学研究所の田中正明所長と小川束研究員が2018年8月18日に鷹架沼(青森県上北郡六ヶ所村)で採集した試料について、珪藻類の分類調査を開始した。試料は永久プレパラート作製用の前処理をした後、光学顕微鏡観察用の永久プレパラートと電子顕微鏡用の試料を作製し、並行して観察と写真撮影を進めている。また、汽水域の珪藻類の分類に必要な文献の収集も進めている。	なし	なし	なし	なし	なし	なし

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
環境	35	山本 伸	近代における土着性の意味と機能についての研究：カリブと沖縄をフィールドに	これまで数多くの論考と著作によって言及を続けてきたカリブ海地域の歴史、社会、文化、人種、その他諸々のことと、ここ数年にわたって新たな研究領域として取り組んでいる沖縄の同歴史、社会、文化、その他諸々のことを有機的に対比させるために、「土着性」の意味について探ることを目的に沖縄での研究会に積極的に出席し、また文献資料の収集を行うことができたのは、昨年同様大きな成果であった。また、カリブ海地域の文学をもちや代表する作家の一人となったエドウィージ・ダンティカの作品『デュー・ブレイカー』の翻訳出版、『クリック？クラック！』の再版が果たせたこともまた、大いなる進展であったといえよう。特に前者作品は数多くの雑誌や新聞、専門誌において書評され、ダンティカの注目度を証明して見せたことは特筆すべきであろう。ただ、昨年度予定していたカリブ海地域でのフィールドワークは果たすことができず、さらに次年度への持越し課題となった。31年度はぜひとも現地(トリニダードもしくはジャマイカ)でのフィールドリサーチを行いたい。					『デュー・ブレイカー』(五月書房新社)、『クリック？クラック！』(五月書房新社)	
環境	36	吉山青翔	エレン・H・リチャーズの環境思想の研究	この課題は長年取り込んでいたテーマで、2018年度はそれまですでに公表したこれに関する論文・講演用の原稿を全面的に再検討し、足りない箇所を補って、ある形に仕上げた。どういう形(ジャンル)で公表するか、著書の形なら、出版費用をどうするかなどを含めて、いま検討中である。			「エレン・H・リチャーズはエロロジーを創始したのか～エレン・H・リチャーズの環境思想と人物像を中心として～」、日本科学史学会東海支部第111回例会、2018年5月12日、愛知労働会館)			
経済	37	岩崎祐子	地域金融、地域資金循環に関する考察	金融機関による事業性評価の課題について考察し、学会発表や論文執筆を行なった。査読付き論文にまとめることができた。		「地域金融機関の事業性評価の決定方法に関する考察」日本産業経済学会産業経済研究19号、2019.3(査読有) 「プロジェクトリスクのポートフォリオ管理のための分析モデルの考察」国際P2M学会誌、2019年13巻2号 p. 300-308(査読有)	「地域金融機関の事業性評価に関する考察」日本産業経済学会第73回研究例会2018.3.16 愛知工業大学 「プロジェクトリスクのポートフォリオ管理のための分析モデルの考察」国際P2M学会秋季研究発表大会2018.10.20 名古屋工業大学			

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
経済	38	牛島 謙	優良企業研究	<p>「優良企業研究」を統一テーマとし、そのためのデータベースを整備することが平成30年度の課題であった。従来、書籍をデータベースに収録し、目次検索・全頁検索で書籍のページが検索できるシステムを構築しているが、平成30年度はこのシステムを流用して、収録するページを雑誌・ウェブサイトに拡張した。</p> <p>雑誌では、経営・ビジネス関係の雑誌の総目録化を図った。特に日経BP刊行の雑誌3誌はテーマに関連する相当数の記事を検索して表示できるようになった。</p> <p>他にはリクルートワークス研究所『Works』や『一橋ビジネスレビュー』などの総目録化も行なった。</p> <p>ウェブサイトでも、経営・ビジネス関係の多数のサイトのページが検索できるようになっている。特筆すべきは、最近サービスが停止された「日経ビジネスオンライン」の貴重な記事を相当数、検索可能にできたことである。</p> <p>私の研究目標は本とウェブの融合、すなわち本の上のデータとウェブ上のデータとがリンクで結ばれた情報空間を創り上げることである。平成30年度はそのための重要な一歩を記すことができたと自負する。</p>	なし	なし	なし	なし	なし	なし
経済	39	熊澤光正	トヨタ生産方式の研究	引き続きトヨタ生産方式の原理と応用について経過を研究し刊行し進めている。	トヨタ生産方式における生産管理の基礎 - 実際例を基に (MyISBN - デザインエッグ社) - 2018/5/28	多工程持ちシステムとその応用, 四日市大学論集 3第 30 卷 第 1 号, 7-28, 2018 トヨタ生産方式における生産管理の基礎: 四日市大学論集 第 30 卷 第 2 号, 49-107				
経済	40	杉谷克芳	1950年代後半における、初期スーパーの成立過程	戦後期の生協運動、とりわけ地域勤労者生協と米子西部生協、および、小売商の反生協運動や中政連運動について、資料の分析をおこなった。						
経済	40	杉谷克芳	ベトナムへの日系企業の進出の現状、ベトナムにおける大衆消費社会の誕生	ハノイ地区の日本留学支援センターを、聞き取り調査した。	なし	なし	なし	なし	なし	なし

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
経済	41	DYKES, David	How language selections are used to control social behaviour in critical situations, and how this works out in practice	This is a personal project that began from a short-lived group COC programme 社会リスクの見える化 in Yokkaichi University in academic year 2014. I have continued to pursue it as a linguistic study individually, mainly in the form of presentations and workshops for a functional linguistics society. Some of the findings also feed back into my university teaching, especially in work- and hospitality-oriented subjects such as Business English I and II, and Global Communication. From 2018 I have just one presentation to report, plus the translation of a Research Society bulletin centrally concerned with disaster mitigation in civil engineering.	No entry for 2018.	No entry for 2018.	7 Oct, 2018. The A.L.I.C.E. Response Programme to active shooters in schools, and the Lockdown context to which it is tied (26th Autumn Conference of the Japan Association of Systemic Functional Linguistics, Nippon Sport Science University, Setagaya Campus, Tokyo. 40-minute oral presentation)	No entry for 2018.	24. Aug, 2018. GEOASIA Bulletin No. 11, GEOASIA Research Society, Nagoya University Department of Engineering (Civil Engineering). Online at https://www.geoasia.jp/english/download/Bulletin11_e.pdf (6 pages). From Japanese Original: 25 Aug, 2017. GEOASIA Bulletin 第11号、一般団法人 GEOASIA 研究会、名古屋大学大学院工学研究科 土木工学専攻地盤工学講座内.	No entry for 2018.
経済	41	DYKES, David	Intuitive and methodical approaches to the discovery of knowledge	This is an area I researched in the 1990s and 2000s in connection with early modern writings promoting mining technology and voyages of discovery, but have not intensively pursued since then. In 2017, I was asked by Professor Ogawa Tsukane of Yokkaichi University to translate an essay "on a theory of proper character" ("自質之説") included, in one manuscript, dated 1722, of a mathematical treatise Tetsujutsu Sankei (綴術算経) by Takebe Katahiro (建部剛広). In this essay, Takebe argues that there is a place in enquiry both for those who can rapidly grasp an overview of all the relations involved in a complex phenomenon and for those who can only advance step by step with the artificial aid of a method. The methodical route leads to its own appropriate results. The argument has parallels to the distinction between intuitive and empirical enquiry in Western mathematics and science, but is grounded in a Confucianist doctrine of people of unequal inborn capacity following virtue with equal ardour each at their own level. This translation is included as an acknowledged Appendix in a larger publication by Professor Ogawa.	No entry for 2018.	No entry for 2018.	No entry for 2018.	No entry for 2018.	2018. Appendix: "One Chapter on a Theory of Proper Character". Translation of Jishitsu no Sei (自質之説), the closing chapter of Takebe Katahiro's Tetsujutsu Sankei (綴術算経), included as pp. 24-27 in Ogawa, Tsukane, "Takebe Katahiro - A man of his times: a survey of his life and mathematical thought". Advanced Studies in Pure Mathematics 79, 2018. Mathematics of Takebe Katahiro and History of Mathematics in East Asia. pp. 3-28.	No entry for 2018.

学部	連番	氏名	研究テーマ	進捗状況	著書(含出版確定)	論文(含投稿中)	学会発表	外部資金	翻訳・その他	芸術
経済	42	李 修二	国際連盟の経済社会分野の活動に関する研究史の概観	報告者が数年来継続してきたところの1920～30年代における国際連盟による経済社会分野の活動に関する、特に20世紀に入ってから国内外の主要な諸研究を概観して研究動向を把握し、それを踏まえて、今後のさらなる研究課題を考察する研究を進めてきた。そして、この研究分野での近年の到達点と見なしうる、イギリスのパトリア・クラヴィンによる著作、Patricia Clavin, <i>Secureing the World Economy: The Reinvention of the League of Nations, 1920-1946</i> (Oxford, 2013)に最終的な焦点を当てていく手法で近年の研究動向を整理し、あわせて報告者による今後の研究課題を提起した論稿にまとめた。		「国際連盟による経済的事業の歴史について—研究動向」『四日市大学論集』(31巻2号、2019年3月)所収				